

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 佐藤
日 時	令和元年10月21日(月曜日)	開 議	午後 1 時 00 分
		閉 議	午後 2 時 12 分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、竹田、菱田		
出席理事者			
出席事務局	山内事務局長、佐藤主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

13:00

1 開議 (小川委員長あいさつ)

[事務局主任より日程説明]

2 今後の委員会活動の取り組みについて

[事務局主任より資料説明]

<事務局主任>

表の「取組優先度」の欄にある、「①早期（おおむね1年以内）、②中期（おおむね1年～2年以内）③長期（現委員でできるところまで行い、次期委員に引継ぐ）④取り組み不要または、すでに取り組み済みである」の①～④を協議の上、一覧表の「取組優先度」欄を埋めていただく。

<小川委員長>

順次、取り組み優先度を決めていく。1番「亀岡駅南のまちづくり」について意見を。

<藤本委員>

①早期に構想をつくりあげる必要がある。亀岡の発展が遅れていくので、早急にすべき。1年で結果が出るとは思わないが、各団体と連携して取り組んでいく必要がある。

<小川委員長>

他に意見がなければ、①とする。今後の進捗について、調査・研究・意見交換を行っていく。2番「旧亀岡町の無電柱化」について意見を。

<赤坂委員>

難しい問題である。地元の関係もあるので、こちらから、話を持っていくのではなく、タウンミーティングのような形で、話を聞いたほうがいいし、③の長期になると思う。

<藤本委員>

先の災害等により、電柱がなぎ倒されて交通が止まってしまっている。国土交通省が、無電柱化を全国的に進めていくべきだと打ち出している。地元との調整も必要なので、中期にして、予算の取り方や、進め方を研究しながら地元との合意を取り

付けていくべきなので、②であると思う。

<菱田委員>

駅南の歴史的景観を保全するまちづくりの取り組みの中に、無電柱化がある。そのような取り組みをしようとしている。駅南のみなら1番2番を一緒にすればいい。旧亀岡町全てなら、駅南と別になるので、その辺を整理してほしい。

<小川委員長>

駅南を中心とした城下町の景観づくりなのか、旧亀岡町全てなのか意見を。

<藤本委員>

旧亀岡町は範囲が広いので、当面は、駅から南郷公園とクニッテル通り、亀岡祭の鉦が通る城下町を観光、防災・減災も含めて絞り込んで取り組んでいくべき。

<奥野副委員長>

もともと「鉦が通れないから無電柱化にしてほしい」と声が上がった。過去にもこの話が出て、住民の理解が得られなかった。住民の意識と協力を集約してから進めていくべき。災害ということになれば、亀岡市全域にかかわってくる。住民の意見が必要になるので、③の長期になると思う。

<赤坂委員>

自治会長と話をして、どうしていきたいかを聞かなければ進まないの、意見交換会をしてから進めていってはどうか。

<藤本委員>

実際にできるのは、長期になってくると思うが、行政視察にも行って勉強をしている。できるところから、市全域を視野に入れて、1～2年の内に話を進めていくことが大事である。

<菱田委員>

1番と2番は一緒にするのか。

<赤坂委員>

まずは、鉦が通るコースを調査・研究していけばいいので、別で考えればいいのでは。

<竹田委員>

無電柱化は特化しているので、別々で考えて進めていけばいい。調査・研究していくなかで、一緒にしていけばいい。

<小川委員長>

1番2番は別々に、②の中期で取り組んでいくことにする。3番「国道9号のダブルルート化」について、意見は。

<藤本委員>

今回の市長選挙でも、ダブルルートの検討に入ると市長が公約で掲げていた。どこを通すか何も決まっていないので、早急に検討すべき。

<赤坂委員>

①でいいと思う。国も関係するので、早急にすべきである。

<小川委員長>

①の早期に取り組んでいくこととする。4番「地下鉄の延伸化」について意見を。

<赤坂委員>

他に直さなければならない道があるので、長期でいいと思う。

<藤本委員>

地下鉄の運営会社とどのような考えを持っているのか聞きたい。1～2年ぐらいには、話し合いを進めていくべきなので、②の中期にすべき。

<奥野副委員長>

できるところまでで、③とすべき。

<藤本委員>

中期的に、京都市や運営団体に話を聞いて調査すべき。

<赤坂委員>

藤本委員は、計画を聞いてみたいということだと思う。ほったらかしにするのではなく、意見交換等で計画を確かめていければいい。

<小川委員長>

長期の③として取り組んでいく。5番「観光地における交通状況」について意見を。

<赤坂委員>

道路が完成していないので、どうなるかわからない。早急に道を完成してもらいたい。早期に取り組んでいく。

<藤本委員>

京都府の渋滞予測が出ていた。スタジアムができて、どのような課題が出てくるのか、たえず検討しながら、提言してくべき。まだまだ予測がつきにくいので、できたと同時に発生すれば、すぐに対応していく準備が大事である。中期でいいと思う。

<小川委員長>

中期として取り組んでいく。6番「にぎわい人口」について意見を。

<藤本委員>

にぎわい人口の増加だけでなく、スタジアムができて、当然にぎわい人口はふえていく。ダブルルートと絡んでくる。②か③でいいと思う。

<赤坂委員>

行政や地元、観光協会、料飲連合会、商工会議所など皆が集まって話をまとめて進めていくべき。にぎわい人口は②か③でいいと思う。

<菱田委員>

ピンポイントで考えるか、全体として考えるかで変わる。最終的ににぎわい人口を目指すのか、6番をなくすのか捉まえ方を議論してもらいたい。

<赤坂委員>

全体的にいると思う。観光に向けて取り組んでいく。最終的にはつながるように残しておけばいいと思う。

<藤本委員>

残しておくべき。大きい一つのテーマである。具体的にするには、トロッコ亀岡駅周辺のにぎわい等が手段として入ってくる。検討は早急にすべきだが、500万人を誘客しようと思うと長期的に取り組んでいくべき。

<菱田委員>

他と並行しながらなので、長期でいいのではないか。

<小川委員長>

長期的に取り組んでいくことにする。7番「国道423号の予算確保」について意見を。

<藤本委員>

国道423号の災害復旧は最優先である。バイパスはその後である。

<竹田委員>

要望活動は調査・研究はいらないので、この項目は不要ではないか。要望活動はすでに行っている。

<菱田委員>

7番の項目は削除でいいと思う。

<小川委員長>

7番の項目は、現状から削除する。8番「トロッコ亀岡駅周辺のにぎわい」について意見を。

<赤坂委員>

8番、9番は関連で、早急に取り組むべき。

<菱田委員>

8番、9番は関連しているので、一緒にすべき。

<小川委員長>

まとめて、早急に取り組んでいく。10番「亀岡商工会議所との意見交換」について意見を。意見がなければ、①早急に取り組んでいくこととする。11番「市の国際交流部門との意見交換」について意見を。

<竹田委員>

10～13番を一緒にして、話を聞いて1つの方向性が見えてきたら、全体で話し合いをしたい。関係団体や常任委員、行政が考えることをつなげていってはどうか。

<小川委員長>

各団体との意見交換を早急にして、にぎわい人口の増加につなげていきたいと思う。13番「観光協会との意見交換」は一度実施したが、どう取り扱うか。意見を。

<赤坂委員>

他の団体と一緒に意見交換をしていきたい。

<小川委員長>

早急に意見交換をして、取り組んでいくこととする。この項目以外にあれば、意見を。

<藤本委員>

北陸新幹線の京都府内のルート案は決まったが、閣議決定には至っていない。もし、本来のルートに戻すなら、今動かないと間に合わないのではどうか。

<菱田委員>

促進協がストップしているのに、委員会が何を言っていくのか。

<藤本委員>

促進協の中に、産業建設常任委員が入っているのに、何の相談もないし、何もしていない。国の方向性を注視したいと言っているだけである。京都府や京都市は国土交通省に調査するよう提言していきと言っている。亀岡市も声を上げるなら今である。

<赤坂委員>

商工会議所との意見交換時に項目として入れてはどうか。

<小川委員長>

そのような形で取り扱うこととする。

<藤本委員>

北大阪急行の新駅が箕面市にできてきている。箕面森町からときわ台、ときわ台から湯の花温泉まで、延伸可能であれば亀岡から大阪まで直で行けるので利便性が上がる。検討して要望していくべき。

<赤坂委員>

4番の地下鉄延伸化と一緒に、聞いていけばいいと思う。

<小川委員長>

4番と一緒にして取り組んでいくこととする。

<菱田委員>

農業振興施策について、調査・研究してきたい。京都府では、京力農場プランをつくっている。亀岡市も合わせてプランをつくっている。農業の底上げができるのか。亀岡では産業として、大きい部分を占めている。担当部長の意見を聞き、調査・研究して、委員会として中期でしっかり提言までもっていければいいと思う。

<竹田委員>

中期でなく、1年で、農業プランを読み込んで、新たに考えればいいと思う。読むだけでも、多岐に渡るので、まず読み込んで次の段階に進んでいけばいい。早急にしてはどうかと思う。

<小川委員長>

農業振興施策について、1～2年で取り組んでいくこととする。

<奥野副委員長>

国営ほ場整備との関係はどうなるのか。

<菱田委員>

もちろん関連する。守る農業と攻める農業がある。攻める農業は農業で生活している。ブランドをつくって売っていく。亀岡に農業で人を呼び込む。さらに充実させるために、どうしていったらいいのか、市が実施する施策だけでいいのか、調査・研究・意見交換しながらつくりあげてはどうかと思う。ほ場整備は水田がベースなので、畑ができない。ほ場整備ができたから、亀岡市の農業が安泰だと言うのは、大きな間違いなので、行政に認識させていかないといけない。議会として取り上げていきたい。

<小川委員長>

早急に取り組んでいくこととする。

次回の月例常任委員会は11月20日（水）午前10時からとする。

散会 ～14:12